

「お産の費用はどのくらい必要なの？」 ご存じですか？



耳原総合病院 産婦人科 部長 坂本 能基

平素より耳原総合病院・産婦人科の診療に多大なご配慮を頂きありがとうございます。耳原総合病院・産婦人科はさらなる努力を重ねていく所存です。先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

妊婦さんやご家族から「お産の費用はどのくらい必要なの？」という質問をよく受けます。それぞれの医療機関で出産費用に大きな開きがあります。また、同じ医療機関でも妊婦さん個々で出産費用に差が出ます。いくつかの医療機関のホームページを見てみると、出産費用について記載されていないことが多いようです。妊婦さんやご家族からすると、出産費用は最も知りたい情報のひとつであるにも関わらず、情報を得にくいのが現状です。そこで今回の「ばーとなー」では、妊娠・出産に関わる費用に関して、一般的な情報と当院の現状について、解説したいと思います。妊婦さんをご紹介していただくときの参考にして頂ければ幸いです。

お産に関わる費用は、出産費用だけでなく妊婦健診にも費用が必要となります。1)妊婦健診 2)出産費用 3)分娩育児一時金とその直接支払制度に分けて解説します。

1) 妊婦健診に関わる費用

出産までに妊婦健診を約14回行います。健診費用は、自費診療費用(基本健診料+健診関連の検査費用)+保険診療費用となります。基本健診料は医療機関によって自由に設定できます。当院では2,200円に設定しています。健診関連の検査費用は、産科ガイドラインの普及により医療機関で行う検査がほぼ同じ内容となり、医療機関による差はほとんどありません。保険診療の対象となるものは、切迫流産、切迫早産、便秘症、貧血症などです。妊婦健診の自己負担は、健診費用の合計から健診助成費を差し引いた額になります。健診助成費の額は自治体により異なります。自治体によっては堺市で使用できない場合もあります。

当院の妊婦健診14回の費用の合計は、93,000円(基本健診料2,200円×14回+妊婦健診関連の検査費用62,200円)+保険診療費用です。堺市在住の妊婦さんの場合は、堺市健診助成が89,800円ですので、自己負担は3,200円+保険診

療費用となります。

妊婦健診費用の自己負担は？

- ①自費健診費用(健診基本料+健診検査料:施設で額は異なる)
- ②保険診療費用(切迫早産、貧血症など)
- ③健診助成費(自治体で額は異なる)

$$\text{健診の自己負担} = \text{①} + \text{②} - \text{③}$$

堺市在住の妊婦さんの場合 耳原総合病院の妊婦健診の自己負担は？

- ①自費健診費用 93,000円(健診14回)
- ②保険診療費用
- ③健診助成費 89,800円(堺市)

$$\text{①} + \text{②} - \text{③} = \text{3,200円} + \text{保険診療費用}$$

(平成25年8月現在)

2) 出産費用

経膣分娩と帝王切開分娩により分娩費用は大きく異なります。経膣分娩の出産費用は、①(分娩料+入院料+食事料)+②(夜間休祝日加算+差額ベッド料)+③(保険診療費用+産科医療補償制度掛金3万円)です。③は医療機関による差が生じないので、自由診療の①+②の額が医療機関による差となって現れます。帝王切開の出産費用は、上述の保険診療分が高額になります。帝王切開の保険適用分は、平均50万円ぐらいですので、自己負担は約9万円(3割負担および高額療養費制度区分B)になります。帝王切開の出産費用の総額は、経膣分娩の出産費用に上乗せする施設もありますし、自費診療分を調節して経膣分娩並みに出産費用を抑える施設もあります。

出産費用は？

- ①(分娩料+入院料+食事料):自費
- +②(夜間休祝日加算+差額ベッド料):自費
- +③(保険診療費用+産科医療補償制度掛金3万円)

自費(①+②)によって医療機関で大きな差となる
耳原総合病院では①を低めに設定、②は必要ありません

厚生労働省は2010年8月に各都道府県の国保連合会に直

接支払制度による申請があった5万3,192人分の出産費用の集計をしました(異常分娩は対象外)。それによると全国平均は47万3,626円、都道府県別で最も高かったのは東京都の56万3,617円、最も低かったのが鳥取県で39万1,459円、大阪府は48万3,032円でした。当院の調査で堺市の医療機関の出産費用の平均は約48万円でした。

当院の場合、出産費用が経産婦で約42万円、初産婦で約44万円となるように設定しています。帝王切開の場合でも経膣分娩の自己負担と変わらないように設定しています。当院の出産費用は、大阪府の他の医療機関と比較して低く設定されています。医師当直制、小児科体制、緊急時の対応などは他施設と変わらないので必要経費には差はないと考えられます。上記①の分娩料、入院料、食事料を安めに設定していることと特に上記②の夜間休祝日加算と差額ベッド料を頂かないことが大きな要因と考えられます。

「患者負担の少ない医療」は当院創立以来の理念のひとつであり、実践として、歴史的に費用負担軽減を患者様の立場から追求してきました。

出産費用の平均は？

大阪府は約48万円(厚生労働省2010年8月の調査)
耳原総合総合病院は約42~44万円(平成25年8月現在)

3) 分娩育児一時金と直接支払制度

出産育児一時金は、被保険者及びその被扶養者が出産された時に、加入している保険組織に申請すると1児につき42万円が支給されます。(産科医療補償制度に加入されていない医療機関等で出産された場合は39万円となります。多胎児を出産したときは、胎児数分だけ支給されます。出産育児一時金を受け取るためには、保険組織に6ヶ月以上加入している必要があります。)

自己負担は？

出産費用 - 出産育児一時金(全国一律42万円)
(すべての健康保険組織で一律42万円)
(産科医療補償制度を利用して)

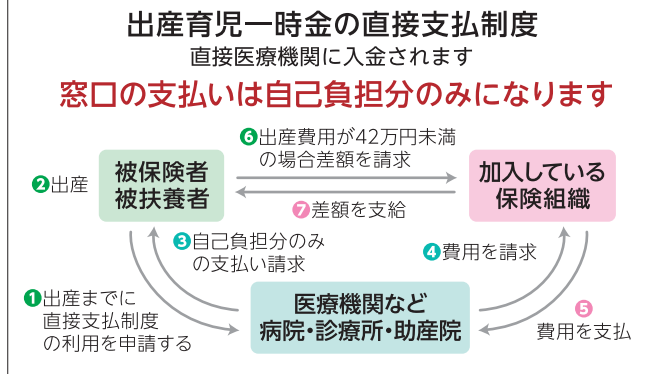
出産費用が42万円を超えると、自己負担が発生
42万円未満のときは、差額を妊婦さんに支給

出産の自己負担は出産育児一時金42万円を差し引いた額になります。従って、大阪府の出産費用の平均は約48万円ですので、自己負担の平均は出産育児一時金42万円を引いて約6万円となります。同様に当院の自己負担は経産婦で約0円、初産婦で約2万となります。出産費用が42万円を下回ると、加入している保険組織に請求することで差額分が支払われます。

耳原総合病院の出産費用の自己負担は？
(出産育児一時金42万円を利用した場合)

約0円~約2万円(平成25年8月現在)

出産育児一時金の直接支払制度とは加入している保険組織から出産育児一時金を医療機関等に直接支払う仕組みで、その場で、出産費用としてまとまった額を事前に用意する必要はなく、窓口での支払いは自己負担分のみで済みます。当院でもこの制度に参加していますので、窓口の支払いは自己負担分のみです。



妊婦さんが産科を選択する要因には、①スタッフの質 ②医療の質 ③病院のアメニティ ④通院の便 ⑤受診のしやすさ ⑥医療以外のサービス ⑦費用などがあります。妊婦さんやその家族から見て、①②は経験や口コミなどで判断します。③④⑤⑥は、ホームページから情報を得ることが可能です。⑦については、ホームページを見ても情報を得にくいというのが現状です。妊婦さんやこれから妊娠を考えている方が、先生のところを訪れたときに、妊娠に関わる費用の概算をお伝えしていただくと喜ばれると思います。

これまで当院は、医療の質の向上や差額室料を頂かないなど患者負担の軽減にも努力してまいりました。しかし、2015年春に新病院が開院しますが、それまではアメニティの面で病院を利用していただく皆様には我慢をしていただくしかありません。そこで当院では、新病院と現病院のアメニティのギャップを埋める目的で、新病院が開院するまで、わずかですが出産費用を下げることにしました。これにより、多くの場合、自己負担なしで出産していただけることになります。妊婦さんやこれから妊娠を考えている方には朗報となると思います。

耳原総合病院の出産費用を3万円減額します
(出産育児一時金42万円を利用した場合)

多くの場合、自己負担がなくなります

(加入している保険組織に申請すると差額が支給されます)
(平成25年10月から平成27年3月予定日の方まで)

今までの経験を生かして 力添えができれば

循環器内科

ニシヤマ ヒロヨシ
西山 裕善



7月より耳原総合病院 循環器内科として赴任してまいりました西山裕善と申します。出身は三重県松阪市で、ずっと三重を中心に生活してきましたが、幅を持たせて医療がしたく大阪で就職することを決め、平成17年に三重大学医学部を卒業し初期臨床研修として生長会 府中病院に入職しました。初期研修終了後も循環器科として府中病院に残留し、昨年度は救急部を兼務で勤務し、かなり成長できたと感じております。

耳原総合病院への赴任を決めた理由としては、循環器診療の上で、専門性治療、施設基準を要する治療があり、たとえば経皮的冠動脈インターベンションPCIにおけるRotablator、心不全治療における心臓再同期療法CRT、不

整脈検査・治療、心臓血管外科術後管理などしっかり学べると感じ耳原総合病院に決定しました。赴任してすでに2ヵ月が経過しましたが、実際に多くの経験ができており、満足しております。

今までは循環器診療以外にも、一般内科、救急医療、集中治療、人工呼吸器、研修医指導なども興味をもち働いてきたので、耳原総合病院でも経験してきたことを活かせるように幅広く勤務できればと考えております。何かあれば気軽に紹介などいただければと思います。耳原総合病院はスタッフみんなで医療を行っていると感じており、僕自身も早くその一人としてがんばり、今までの経験を生かして力添えができればと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。

日進月歩の診療技術を吸収し 患者さんの目線で丁寧な診療を

眼科

クリモト タクジ
栗本 拓治



はじめまして、本年8月から眼科部長として赴任させて頂くことになりました栗本拓治と言います。

平成9年に川崎医科大学を卒業し、これまで兵庫医大眼科、市立芦屋病院、大阪医大眼科と主に大学病院の方で勤務させて頂きました。白内障、緑内障、糖尿病網膜症などの一般眼科疾患に加え、神経眼科という分野を専門にさせて頂いておりました。神経眼科領域では、視神経疾患、眼球運動麻痺、眼瞼疾患などが対象になり、その治療に当たっております。

診療技術は日進月歩で進歩しております。患者さんに的確な医療を提供できるように、日頃から知識、技術をアップデートし吸収して参りたいと考えております。実際の診療で

は、診察、治療を受けた患者さんが当科にまた受診したいと思われるように、患者さんの目線で一人一人に丁寧な診療を心がけたいと考えております。

当院眼科は、暫くの間、常勤医不在の中、非常勤の先生方の協力により少し制限した形ではございましたが診療を継続させて頂いております。今後は、微力ではありますが、以前の眼科の賑わいを取り戻し、受診を希望される患者さんが多く来て頂けるよう、外来、病棟、オペ場などの関係スタッフの方々と協力して診療体制の調整を進めていけたらと考えております。また、同仁会の関連施設、近隣の開業医の先生方には、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。